

会議の概要（議事録）

会 議 の 名 称	(番号) 1－5 1	令和6年度第1回 墨田区スポーツ計画推進協議会		
開 催 日 時	令和6年8月22日（木） 午後6時30分から午後8時00分まで			
開 催 場 所	すみだリバーサイドホール1階会議室			
出 席 者 数	7人 【委 員】澤江 幸則、坂井 正廣、田口 眞知子、田口 夏男、 苅谷 裕子、後藤 隆宏、岩瀬 均 【事務局】スポーツ振興課（大島課長、覚張主査、小山主査、村上主事）			
会 議 の 公 開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議 題	1 会長及び副会長の選任 2 墨田区スポーツ推進計画アクションプラン（案）について 3 その他協議会所管事項について			
配 付 資 料	1 墨田区スポーツ計画推進協議会に関する要綱 2 墨田区スポーツ計画推進協議会委員名簿 3 席次表 4 墨田区スポーツ推進計画アクションプラン（案）について 5 意見書			
会 議 概 要	1 開会 スポーツ振興課長から各委員に対して、本協議会の構成及び運営、情報公開等について説明し、了承願った。 2 地域力支援部長挨拶 3 委員紹介 4 委員長及び副委員長互選 委員の互選により、委員長は澤江幸則氏に決定し、委員長の指名により、副会長は高山浩久氏に決定した。 5 墨田区スポーツ推進計画アクションプラン（案）について スポーツ振興課長から、アクションプラン（案）について説明した後、質疑応答、意見交換を行った。 以下、主な質疑応答 〈委員（スポーツ関係団体等）〉 コロナ前は障害者の方を対象にした運動会のようなスポーツイベントを実施していたが、今回のアクションプランには盛り込まれていない。区としてどのように			

考えているのか。

〈事務局〉

障害者スポーツレクリエーションのことと思うが、区内障害者施設の合同運動会のようなイベントを実施しており、令和元年度が最後の実施となっている。

現在、今年度からの再開に向けて動いており、まず、障害者施設の方に、実施種目等についてのアンケート調査を実施しているところである。

スポーツ振興課としては、規模縮小や種目の選定等、新たな形での開催を模索しており、アクションプランには掲載をしていないが、障害者の日常的なスポーツの推進のための事業の一つとして、今後、組み入れていければと思っている。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

中学校の部活動地域移行が進んでいるが、指導者としてお手伝いをされている方は、指導者資格等を取得された方なのか。

〈委員（行政）〉

地域移行を進める中で、指導員は、現場の運営はもちろん、審判等もできる人が求められる。そのあたりも含め、現在、指導者派遣についての規則改正等の検討をしている。

ただ、全ての学校ですぐに外部指導員を導入できるわけではないため、できることから少しずつ進めていきたいと考えている。

現在、部活動によって、授業の準備時間等が満足に取れず、特に中学校の先生は、80時間以上も残業してしまっているという現状も聞いている。区としても、少しでも先生の負担を減らしていきたいと考えている。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

総合型地域スポーツクラブでは、現在、区教育委員会からの委託を受け、部活動指導員を派遣している。指導員の方については、指導経験のある方にお願いしている。実際、顧問の先生は初心者であり、審判等もできないため、外部指導員の派遣により適切な技術指導等ができていているという話も聞いている。

現在、複数人に指導者をお願いしているが、各々連盟に所属しており、実績のある方にお願いすることができている。ただ、今後外部指導員の派遣件数が増えていく中、どこまで、指導員の確保ができるのかということ、また、指導の仕方等、色々な基準などを区の方で決めていただけるとよいと思う。

〈委員（行政）〉

皆さんが一番心配されているのは、保護者からの理解であると思う。

ただ、教育委員会で学校の先生にアンケートをとったところ、部活動を苦に思っている先生が多くいた。一方で、外部の方が入ることによる、体罰、ハラスメント等についてもしっかりと対応していかなければならないと考えており、指導員の研修や資格の要件等についても、現在、学校と細かく調整を行っているところである。

〈委員長〉

部活動地域移行についての都の方針はこれから示されるのか。

〈委員（行政）〉

都は、公立高校についての方針を示しており、1校あたり、最低1つの部活は地域移行をするという方針が示されている。区の計画としても、令和7年度までに実施検証を行い、将来的な完全移行を目指すこととしている。まずは令和7年度まで

に各中学校において、文化部も含めまずは一つの部活動から着実に地域移行を進め、裾野を広げていきたいと思っている。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

総合型地域スポーツクラブでは、中学校部活動の外部指導員の派遣をしているが、顧問と指導員の考え方が合わず、指導員がやめるという事例があった。このことは、地域移行における、課題の1つであると思う。今後も、区と課題点を共有しながら、協力して進めていきたい。

〈委員長〉

こういった事例は教育委員会として把握しているのか。

〈委員（行政）〉

今回は総合型地域スポーツクラブに委託という形で外部指導員の派遣をお願いしており、その他にも、区が指導員を直接雇用するという方法で行う場合もある。

現在、試行錯誤している段階であると思うので、色々な課題が出ることもあると思う。一つずつ解決し、改善していければと思っている。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

障害者向け運動教室について、総合型地域スポーツクラブでは、令和5年度に3回実施し、今年度については今後、複数回開催予定である。先日実施した特別支援学校を卒業した方を対象にした教室では、支援学校を卒業した方の同窓会のような場となり、そういった面でも非常によい取組であったと感じた。障害者向けの運動教室については、多くの需要があることも受けて、スポーツ振興課にも支援してもらいながら、今年度10月からは単発ではなく、全10回の障害者向けスポーツ教室を実施する予定である。また、前回障害者向け事業を実施した際、パラスポーツ指導員の講習を受けたスポーツボランティアの方にお手伝いをいただき、障害者の方との接し方等とても勉強になった。今後も協力体制を築いていきたい。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

スポーツボランティアの中には、初級パラスポーツ指導員等、専門的な資格を持っている方もいる。そういった意味でも様々な場面でお手伝いができるかと思う。また、区でも昨年度から初級パラスポーツ指導員の資格を取るための講習会を実施していただいている。今年は11月に実施すると聞いている。

〈委員長〉

例えば総合型地域スポーツクラブで障害者向けのスポーツイベントをや場合には、指導員等についてはどちらに相談しているのか。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

こういった場でつながりのある、東京都の障害者総合スポーツセンターに相談したり、区のスポーツ振興課に窓口となってもらっている。

〈事務局〉

現在、区では、スポーツボランティアの登録を行っている。現時点で150名ほどの登録があり、区内のスポーツ事業で、ボランティアが必要な場合に、適宜ご紹介をしている。また、先ほど東京都とのつながりというお話があったが、現在、区では、障害者スポーツ推進協議会を定期的開催している。その中で、会議に出席いただいているスポーツ関係団体同士のつながりが生まれてきていることもあり、関係性も構築できてきている部分もあると思う。

〈委員長〉

関係性というところではフォーマルな部分とインフォーマルな部分があると思う。フォーマルな窓口はしっかりと用意する必要があるが、その上で、インフォーマルなつながりを構築していくことも非常に大切なことであると思う。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

部活動地域移行について、現在は１種目であるが、今後種目を増やしていく場合はどのような考え方になるのか。

〈委員（行政）〉

まず、昨年までと今年度からでは部活動地域移行についての区の考え方が変わっているということがある。当初、都が示した基準は、かなりハードルの高いものであったが、区としては、地域移行はそんなに簡単に進むものではないと考えている。これは議会からもそういった意見をいただいております、地域の方からも地域移行については様々な心配の声をいただいているところでもある。また、学校の先生の中には、部活動に熱心は先生が相当数いるというのも事実であり、そういった先生方のやる気をそぐ形となってもいけないと考えている。

そういった様々な課題を踏まえ、昨年までは、どちらかというと地域移行をどんどん進めていかなければいけないというスタンスであったが、今年度からは、しっかりと着実に定着していくように進めていく方向に考え方を改めて進めているところである。

〈委員長〉

地域移行には、関係各所様々な思いがある。まずはしっかりと各々が意見を出し合っていくことが大事であると思う。その中で、墨田区としての地域移行を進めていってほしい。

〈委員（行政）〉

昨年度、皆様のご協力の下に計画を策定した。その実効性を高めるために具体的な実施計画を作るに当たり、今回、こういった形で皆様からご意見をいただいているところである。

計画の一番大きな成果指標として、『『週に一回以上運動・スポーツをしている』成人区民の割合７０％以上』ということ掲げているので、これを達成するために、こういったことをしていかなければならないのかということ、もう少し詰めていかなければならないと思っている。「事業を実施した」で終わってしまうのではなく、その事業の質や量をどのように高めていくのかということまで考えていかなければならないと思う。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

運動習慣のない方に、いかに運動をしていただくかということで、総合型地域スポーツクラブでは、音楽や絵画等、文化的なことから、スポーツの間口をひろげていく取組も行っている。今年度からは、相撲甚句を取り入れており、そこから運動につなげるように取り組んでいる。

〈委員長〉

スポーツへの参加に関する研究というのは、様々なものがあり、スポーツ参加のきっかけとして一番多いのは、自分がスポーツが好きだからということではなく、誰かがやっている、知り合いがやっているという人とのつながりであるというデー

タがある。現在では、それがスポーツビジネスにも多く使われていて、例えばあるフィットネスジムでは、談話する場所を設けることで、インストラクターとお話することを目的にジムに通い始め、そこから運動につなげている。また、最近話題のフィットネスではこの仕組みで、カラオケなどからスポーツにつなげている。

こういったようにスポーツをすることだけでなく、別のところにも価値をもたせることで、そこからスポーツにつなげているということは非常に有効であると思う。墨田区のスポーツボランティアでも、一回きりの活動にするのではなく、活動を通じてボランティア同士で顔見知りになってもらい、その人に会いたいから参加するという形を作れると、参加率ももっと向上していくと思う。

また、この行動計画は、昨年度実績から施策評価指標の数値がどのように増加していくかを評価する形となっているが、今年度からの新たな取組というのは、どういったものがあるのか。

〈事務局〉

新たな取組として、現在、スポーツ情報発信サイトを立ち上げる準備をしている。一昨年、計画策定に向けた区民向けのスポーツに関するアンケート調査を行った際、区民の方から、スポーツに関する情報をどのように得たらよいかわからないという意見を多くいただいた。そういったご意見も踏まえ、簡単に自分に合ったスポーツであったり、スポーツイベントの情報等を案内できるサイトを立ち上げようと考えているところである。

その他の今年度からの新たな取組としては、働き盛り世代のスポーツ推進として、企業対抗の運動会を産業振興課と連携して実施しようとしているところである。コロナ禍を経て社員同士のつながりが希薄になっている中、需要があるものと考えている。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

スポーツをする人を増やしていく上で、活動場所の確保が難しいという問題もある。現在、施設や学校を利用しているが、それでも足りなくて、最近では、艇庫を活用したり、河川敷を活用したランニングイベントを実施したりと、活動で屋外に出るようになってきている。

スポーツ施設以外の河川敷等も活用しながら、スポーツ活動に参加するという機会を増やしていければと思う。

〈委員（スポーツ関係団体等）〉

新たな取組ということに関し、計画は7年計画であるので、最終目標として何か大きな事業を打ち出して、それに向かって皆で協力していく形がよいと思う。マラソン大会開催を目標に掲げることを提案する。

〈事務局〉

計画の考え方として、まず、大きな目標というのは、基本理念として、「誰もがスポーツを楽しみ、スポーツでつながるまち すみだ」ということを定めている。さらに、この目標に向かって、令和12年度の「週に一回以上運動・スポーツをしている」成人区民の割合70%とするための具体的なプランとして、今回各事業をお示ししているところである。

マラソン大会に実施については、これまでも様々な議論をしてきたところであり、交通規制の問題、実施体制の問題等多くの課題もある。その中で一番大事なの

	は、区民の皆さんがマラソンに対してどう思っているのかということであり、あわせて区民の機運醸成といったところも非常に大切であると認識している。 〈委員長〉 スポーツ実施率７０％を達成するというのは、無理やりスポーツをやっている人を７０％にするということではなく、全体の７割の人が、スポーツを楽しんでいる姿が墨田区に見られるということだと思う。 こういった思いを共有して、とりあえずイベントを実施して数値を達成しようということではなく、日頃からスポーツを楽しんでいる人を増やした結果として、目標を達成できればと思う。 会議の概要は、以上である。
所 管 課	地域力支援部スポーツ振興課スポーツ振興担当（電話 ５６０８－６３１２）